

よろこびの泉

わたし(イエス・キリスト)が与える水を飲む者はだれでも、決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。
新約聖書 ヨハネ4:14



パステル画 小さき実たち

ブルーベリー

ぶどうの実

水野源三

母が一つぶ一つぶ

口に入れてくれる

ぶどうの実の

よいかおり あまさに

ぶどうの幹なるイエス様に

つらなる我らならば

神さまに喜ばれる

よい実をむすばねばと思ふ

水野源三第一詩集「わが恵み 汝に足れり」より
作者は小学四年の時、赤痢の高熱から脳膜炎を患い、首から下の全機能を失う。十二歳の時聖書に出会いイエス・キリストを信じ、残された機能、目の働きにより詩を作られた。

発行所 〒630-0266 奈良県生駒市門前町七-四〇 日本ミッション
電話〇七四三-七三二一七五四 振替口座〇〇九三〇二六六二番

発行人 ファアベイ・D
編集人 日本ミッション編集部

印刷所 〒350-0303 埼玉県比企郡鳩山町熊井一七〇
電話〇四九(二九六)〇七二七七 新生宣教師印刷部

一年分 送料共 九〇〇円
定価 一部 一八円

質問箱

次々使い、預金は底をつき借金が膨らんでいます。どうしたらいいでしょうか。

問

三十代の女子です。会社の倒産で失業したあと再就職ができず、気晴らしに毎日商店街をぶらぶらするうちにひとりの人に出会い、その人の巧みな言葉に唆されてお金を

答

似たような経験をされた方がありますのでその話をします。
彼女もやはり失業の後、友達もなく、寂しさを紛らわせるために毎日街に出かけ、ウインドーショッピングをするうちに素敵な服を見つけた。ちょうど面接を受けたばかりだったので、採用が決まったらそれを出社したいと思いい、店に入って店員に話すと試着をさせてくれ「よく似合います。あなたにピッタリ。これは一点物だから買うなら今よ」と言われ購入を決めました。ところが生憎持ち合わせがなかったので消費者金融のカードで支払いました。
これがきっかけで店員と親しくなり、度々店に誘われ、高額な服や靴、化粧品を紹介されては購入し、カードで支払い、自宅は高級ブランドの買い物袋と品物で溢れ、気付かない内に重度の買物依存症になっていました。最初は「両親も助け、百万、二百万円と支払って貰いましたが、借金は一向に減りません。支払ったのは利息ばかりだったのです。返済が滞ると督促状が再三届き、とうとう彼女は死ぬ方法を考えるようになり、放置すれば自死の危険ありと診断され精神科病棟に強制入院させられ、「うつ病と買物依存症」の治療(カウンセリング)を受けました。
その後自己破産の手続きに入り、保護者同伴で法律事務所、裁判所に何度も呼ばれ、精神科医の診断書と本人の反省文を提出。六ヶ月後、申請が認められ、残る借金は許してもらえました。(この許しにはその後課せられる社会的制裁があることを覚えておいて下さい。背後にはクリスチャンの両親の切実な祈りもありました。娘さんも今は立ち直り、神様を信じて平和な生活をしておられます。
「人はそれぞれ自分の欲に引かれ、おびき寄せられて誘惑されるのです。……愛する兄弟たち、だまされないようにしましょう。」
(ヤコブ1:14-16)
(見玉 博之)

親子のしあわせ

395

十月には、幼稚園の運動会があり、運動会には、勝つか負けるかという勝負があります。

子どもたちは、リレーが大好きで、満3歳児から年少、年中、年長へとバトンを繋いで走ります。満3歳児は、なんだかわからないけど……、年少は、とにかく走れと言われてるから……、年中は、がんばって走るぞ……、年長は負けたくない……そんな思いでしょう。3歳児は本当にかわいいです。友だちが来ないと待ってあげたりして、年長になると必死です。絶対に勝ちたい。そんな走りです。

負けたと怒ってしまう子がいました。何につけ負けたことを上手く消化できないのです。リレーで負けたら、そのあと食事になっても他の活動になっても気分を変えられずいます。先生が、「〇ちゃん、勝つこともあるけど、負けることもあるから楽しいんだよ。怒らないで。みんながんばってるんだから」と言っても、中々気分は変わりません。

昨年の運動会は途中で雨になり、リレーは日を改めて行うことになりました。リレーの行われる日、先生は〇ちゃんに気がなれます。リレーは接戦で、抜いたり抜かれたり、応援にも力が入りました。結果、同時ゴールで、大きな競技会ならばビデオ判定になる場所でした。

なんだか感動して涙が出ました。こんなことがあるんだとみんな驚き、子どもたちもびくつきながら感動してました。負けたくない思いを持つことは、がんばる力になりました。あれから一年、〇ちゃんは相変わらず負けることが嫌いですが、今はあまり怒らないで落ち着いてきました。

子どもたちには、色々なことに負けないでがんばってほしいです。それと同時に、負けたように思うときに怒ったり投げ出したりしないで解決する、耐える力を子どもたちに持つてほしいです。いやれ自分自身も持つてほしいです。聖書の一節。

「あなたがたは、世にあつては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」(ヨハネ16:33)
(相原 幸紀美)



*この「よろこびの泉」は、統一協会、エホバの証人、モルモン教のものではありません。これらの問題でお困りの方は、上記の教会にご連絡ください。

I面絵提供：棚橋淳子

●質問箱への投書(100文字以内)よろこびの泉に関するお問い合わせは izumi@japanmission.org まで

みこじばに生かされ導かれて

大阪府 榎橋 淳子

高校までの私は、自分で言うのもなんですが、優等生でした。小さいころに、弟と妹を亡くして一人っ子になった私は、「二人の分まで頑張ろう」と、思ったのです。父も私に期待し、私はその期待通り同志社大学に進みましたが、その後に思わぬ事が待ち受けていました。



▲プロフィール写真

挫折と失恋

ところがそこにはすでに英語がペラペラで、知識が豊富で、人としても大きい人が大勢いました。私はそれまで公立の高校で優秀な方だったので、素晴らしい人たちと出会ってからは、自分は大したことにはなかつたんだとがっかりきて、どんどん自信がなくなり、落ち込んでいきました。

そんな時に、お兄さんのように思っていた先輩が、一生懸命励まし支えてくれました。「お前はそのままがいいんだ」と言ってもらい、ほっとできて、彼の優しさで惹かれていき、私たちはお付き合いするようになりました。

3つ年上の彼は、卒業して就職のため東京へ行くことになり、その時、私が卒業したら結婚しようという約束をしたのです。けれども1年ほどたった頃、だんだんと彼からの連絡が少なくなってきた、そしてとうとう「別れてほしい」という手紙が来ました。「なんで？」と聞きましたが、理由は言ってもらえませんでした。私はすごくショックでした。あれだけ好きで結婚の約束までしていたのに、と嘆き悲しみま

キリスト教への出会い

少し落ち着いてきて、久しぶりに学校に行った時、同じクラスのクリスチャンの友達と心配して、話しかけてくれました。そんなに親しい関係ではなかったのですが、温かい雰囲気の中で彼女に彼との話を話す気になりました。彼女はそれから毎放課後、私の所にきて話を聞き、聖書を読み、祈ってくれたのです。最初は、宗教に勧誘されるんじゃないか、なにか裏があるんじゃないかといぶかしく思っていたのですが、彼女は毎日私のために時間をとってくれて、時には涙を流して私が元気になるよう祈ってくれました。

なんでこの人は私のためにここまでしてくれるのだろう。彼女の信じている神様は、どんな方なんだろうと思うようになり、彼女の通っている教会に行くようになりました。そして、牧師から、神様のことがイエス・キリストのこと、イエス様の十字架のあがないと復活について教えていただきました。

そして「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(ヨハネ3:16)のみことばに心が開かれ、イエス様を救い主として受け入れ、クリスチャンになりました。

それまでは、自分の力を頼み、人の愛を求めていました。それらは大切なものですが、ずっとは続かない、変わっていくものです。それらに頼っていた私は、自分への失望と失恋を通して、まことの神様が永遠に変わらない愛をもって私を愛してくださることを知りました。大学での挫折を通し、主と出会い主を信じる者へと立て直されたのです。

幸せなときにうつ病が

大学を卒業後は英会話スクールで英語を教えるようになりました。そのころ中学からの文通友達だった現在の夫が、就職で京都に来たことから付き合うようになり、彼と結婚することになりました。とても真面目で誠実な彼と、楽しく結婚式の準備をしていたのですが、式の少し前に、原因のわからない病気になり、それがきっかけで、新婚早々うつ病になりました。

私はクリスチャンになっていましたが、うつ病が本当に酷く辛く苦しくて、どんどんうつ病の闇に引きずり込まれました。主人が会社に行っている間、不安発作というのが起こって一人で新居におれなくなると、実家に帰って養生させてもらうことになりました。

一番幸せな時にうつ病になるなんて、そして、実家に帰るなんて思ってもみなかったことで、もう私はダメだ、結婚生活にも戻れないだろう、こんなに苦しいのなら死んだ方がましだ、と思って、何度か自殺をはかりました。けれど、怖がりだった私は、死ぬこともできずに、もう何もかもわからなくなりたいと思っていました。

うつからの回復

そんな時、神様は私に助けの手を差し伸べてくださいました。クリスチャンカウンセラーの先輩が心配してお手紙をくださったのです。自暴自棄になっていた私でしたが、彼女の優しく包み込むような文章に心がやすらぎ、手紙のやり取りを続けました。だんだん心が柔らかくなってきたある日、聖書を読んでみようというページを開いた時、一つのみことばに出会いました。

「シモン、シモン、見なさい。サタンが、あなた

がたを妻のようにふるいにかけることを願って聞き届けられませんでした。しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」(ルカ22:31、32)

この言葉を読んだとき、私の心に衝撃が走りました。これはイエス様が私に言ってくださっている。自分自身を見捨てていた私を見捨てず、私のために祈ってくださっている。私は主の愛を深く実感して号泣しました。

この後、うつ病の症状はどんどん改善され、病気の癒やしも与えられて結婚生活に戻り、二人の子どもが与えられました。そして結婚当時に抱いた、念願だったカラーの勉強を始めることが出来、今のカラーのお仕事へとつながっていききました。

この経験は、私の人生の中で一番つらい出来事でしたが、ここを通らされたからこそ、一人娘で親の期待に添うような生き方ばかりをしていた私、その一方で親に甘えていた自分が、自分の足で立つことができるようにされ、神様とのつながりが深くされたと思います。

母が認知症に

母は、私がクリスチャンになって5年ほどした時に救われました。それから20年、礼拝を欠かしたことがなく、熱心に聖書を学び祈りの人でした。そして、教会役員として、縁の下の力持ちのように入らんとご奉仕をして、牧師先生を支えてきました。その母が数年前に認知症と診断され、症状は徐々に進んで今は要介護4となり、家事も自分の身支度などもできなくなりました。「なぜ認知症になるのですか?」どうか癒してください」と神様に何度も祈り求めました。そんな時、神様はまたみことばをもって、私を

支えてくださいました。弟子たちがイエス様に、生まれつきの盲人を見て、「誰が罪を犯したのですか?」と尋ねた時の主のお答えです。

「この人が罪を犯したのではなく、両親でもありません。神のわざがこの人に現れるためです。」(ヨハネ9:3) この御言葉によって全ては主の御手の中にあり、母の病いは神のわざ、栄光を現すためのものだとすることに気づかされました。御名を崇めます。

カラーの仕事

私は今、J&H Studio 色彩教室を立ち上げ、活動をしています。活動の場は主に自宅教室で、カラーとパステルの講座やセミナーを行っています。カラーを通して神様の愛を伝えると一言ですが、カラーの内容はパーソナルカラー診断、カラーセラピー、パステルを使って色の癒しを実感していただくパステル和(なごみ)アートです。最近のみことばからインスピレーションをいただいて、パステル画を描くようになりました。(今月のよろこびの泉表紙の絵「小さき実たち」はその一枚です)。絵にみこ

とばをのせたポストカードの制作もはじめています。このような働きに導いてくださった主に心から感謝しつつこれからも励んでいきたいと思えます。

(大阪府枚方市在住、クリスチャンカラーリスト・単立キリスト教会楠葉コイノニア教会員)



▶同志社大学学生支援センターでのカラーセミナー